



やっぱりだまっていられない 弓削通信・復活します！

今はどんな時代か

合併後の上島町はすでに5年半が経過した。

平成の大合併は1万人を最小自治体の目標人口として進められたが、上島町は合併時8,098人から昨年末7,640人へと、穏やかな言い方をすれば漸減している。しかし実は、子供が生まれながら年平均百十数人減少し続けているわけで、この調子でいけば50年後は・・・そんなことあ知りゃあいませんか？

島と島の合併ということその点では希少性は持ちつつも、自治体も住民も人口減少に対する危機感の希薄さで、これまた無類の希少性を持っているのではないかと、そのことにまず危機感を募らせる。今はどんな時代かを少しは考えてみませんか。



間に合わせ

一昨年、上島町二期目の選挙に際しては生名1名、岩城2名、弓削2名の新議員が議会に入った。期待の5人は議会に入り、自らの信念や公約に基づき活発な議論を展開しているか？。議会で論議されていることが十分有権者に伝えられているか？。

残念と言うほかないのか現

実であろう。

自治体は合併してすぐ「上島町元気アップ計画」(上島町総合計画)をつくり町内全戸にも配布した。それは町の将来に関して官民一致の危機感を持ちましょうという宣言であったはず。

綾小路きみまろの言いぐさではないが、あれから5年。人口は、日欠け、月欠け、年欠けに、2%ずつ欠け続け心がけが間に合いません。

平成22年度は先の総合計画10年の折り返し点である。人口減に歯止めをかけるべく取り組んできた行動に関して検証をせねばならない時期でもある。それなのに議会ではそこへ水を向ける議員の一人だになく、相も変わらず担当課へ問い合わせればすむ類の質問や、意味不明の質問が議員様方から発せられている。

議会傍聴をしていて感じることは、この人たちの視野には町の将来も、いわんや現況も無いようである。

わかっちゃいるけど

読み返してもそれなりによくできてる総合計画ではあるが、絵に描いた餅とさせぬためには何が求められているか。

すでに賢明な読者にはそれがわかっているが、なお知っちゃあいませんか？

島と都会をつなぐたとえれば助け合い 岡八代美さん



2010/03/26

「写真説明」岡八代美さん(向かって左)と筆者。文集「なかと」は毎年発行。八代美さんこだわりの文集。全議員の思いが凝縮されている。

施設に勤務。無認可保育所に



一歳から東京の養護社法人「中都」の理事長。「なかと」とは言うまでもなく彼女の育った弓削中地区のことだ。二十

旧「弓削通信」でも何度か話題にしたことのある人物に岡八代美さんがいる。岡さんは新居浜生まれだが弓削の中部地区で育った。彼女は

八代美さんに教わること

はじまり「保育園・うさぎとかめ」「特別養護老人ホーム・つるとかめ」「デイサービス・つるとかめ」「渋谷区グループホーム・笹塚」と一貫して理想を追い求めてきた。

利用者一番、弱者一番

いまでこそ老人ホームは個室が標準だが特養「つるとかめ」設立時はまだ大部屋に収容するのが法的標準だった。施設といえど利用者にとつてはマイホームという観点から、福祉先進国では標準であった個室を頑強に主張し区からの譲歩もかちとった信念の

利用者一番、弱者一番

人でもある。

老人ホームと保育園を同じ建物内に設け、日常の幼児と老人の交流を通じて、本来世の中にあるべき老若の精神的絆を強めることも実践してきた。

何が彼女をそこまで駆り立てるのか。田舎に残してきた老母を引き取り、母の得心のいく介護をと特養をたちあげたことから垣間見えるように、どんな施設であれ「利用者一番」「弱者一番」の立脚点からものごとを考えるからにほかならない。

故里を遠くにて想う

先日八代美さん帰郷した。久しぶりにお目にかかり久闊を叙した。帰郷の理由が、人に貸していた旧宅と土地が、

ヒントがあっても



翻って我が町では、じり貧にむけ人が減り続け、自治体の施策も、それに関わる者たちの想像力の欠如、やる気のなさ、怠慢等で殆ど見るべき成果を上げ得ていないのが事実だろう。ひとり行政職員や首長のみのせいではない。施策に無関心だったり、いつまでも個々人の損得のみに軸足を置きがちな住民の姿勢もあげつらっている。

(平山和昭)



都会と島をつなぐ たとえば学びあい 大出俊幸さん

歴史の事実を掘り起こす人生

大出俊幸さんは先頃まで東京の出版社「新人物往来社」の名物編集長だった。出身はおとなりの因島重井町。「新人物往来社」は歴史物の出版では斯界一の定評がある。かたわら地方の郷土史家やその研究の発掘、出版も数多く手がけてきた。月刊雑誌では歴史読本が有名。

大出さんは歴史出版とは歴史上の事実をデータとして読者に提供することだという。自らは幕末史、ことに新撰組の権威。新撰組のことなら大出にきけ、で通っている。ドラマの時代考証に大出さんの教を乞うのは欠かせない。

千葉県流山市が幕末動乱期の新撰組の活躍の舞台であったことからそこに居を構え、新撰組研究と隊員の顕彰をしている。「新撰組友の会」「民学の会」「本の会」「因島自由大学」「東葛流山懇話会」などたくさん自主的学びの場も主宰。

「因島自由大学」は大出さんが学長。中世ヨーロッパのカタルーニアで自由、自主、自治の精神のもと市民が自ら学びの場を主宰した市民自由大学にちなみ命名したと聞いたことがある。

毎年一回、かつて大出さんが教師をしていた因島田熊中学校の教え子(昭和40年頃卒)が現地スタッフとして昨年までに14回の継続を数えている。聴衆は関東、東北、九州、アメリカと多岐にわたり、数十人が毎年来島する。今年も6月に予定されているようだ。



大出さんの目指すところは、島に来る人と島の人とが交流することを通じ、島の人が一歩外に踏み出す。そして未知の土地で学び交流する喜びを味わってほしいということ。地方に住む私たちが歴史を学び、歴史的に物事を見、事実をデータとして受け取り、そのうえで自ら判断をくだす。それが大事なのだとおっしゃる。

この活動も大出さんの本業であった編集長時代の人脈で多士済々の講師が来島された。企画を地元が立て、そのうえで講師へのつなぎを協力させてもらえるようになればいいのだがと大出さん。都会と島をつなぐ。故郷への深い愛があるからだと思う。大出俊幸さん(向かって右)と(平山和昭)

なテーマで書き続けられたら少し前までは・・・「みたい

ぬ大オバはんはんに到達した筆者の「こんなことはなかった、どうかは存じません。

春に三日の晴れ間なし、とは昔の人はうまいこと言いますね。

青木喜代子



Xをした。近頃は何でもかんでも詳しく

「FAXは昼間をお願い致します」若い事務員あてにFAX

「ハイ！」

先日電話でコーヒー豆を注文した。ていねいに応対してくれた女性は「おそれいりませんがこの特典はFAXのみです。改めてFAXで注文しなおしてください」「え？今あなたに直接注文してはいけませんか？」「ハイ！」

とあります。木戸口通つてこのコラムに入り、おもしろくなくつてもごめんなさいましまし決して木戸銭返せ、なんておっしゃらないでね。

くはホームページで、と。すみの方に検索の四角いマークがパソコンを使えない私をあざ笑っているかのように見える。こんなことはなかった。少し前までは。

突然だが元宇宙飛行士の秋山さんは、ケイタイもパソコンもすて、山の中で自給自足の生活をされている。右岸から左岸へ。そのお顔はとて

の機械相手におもしろくもない。

市外局番を見ればおおよその地域も見当がついた。せめて電話のやりとりがあればそれなりに人とのつながりを感じることでもできよう。@や/の

の機嫌が悪い(1)

春つらら。尾道へ行ったら映画をみませんか

尾道駅前
シネマ尾道の手配
尾道の若者が復活させた
駅前映画館シネマ尾道の上映スケジュールです。
詳しくは ☎0848-24-8222

HP <http://www.cinema-onomichi.com/>

上映日	上映作品
4月17日	『サヨナライツカ』
～	『イングリシアス・バスターズ』
4月23日	『ファッションが教えてくれること』
4月18日は貸館のため別スケジュール	
4月24日	『サヨナライツカ』
～	『ジュリー&ジュリア』
4月30日	『クヒオ大佐』
5月1日	『恋するペーカリー』
～	『ジュリー&ジュリア』
5月7日	『クヒオ大佐』

シネマ尾道映画hpより抜粋

☆ツイッターまがい (1)

時の総理や閣僚もはまっているというインターネット簡易掲示板。Twitter・ツイッターという。140字の文字制限があるが参加者が何百万人もいるので、書けば必ずだれかの目にとまる。上島町岩城・積善山の桜についても、すでに誰かが世界中にその情報を流しているだろう。

先日は積善山の桜祭りだった。3000本と公称される桜だが、ここにも高齢化の波が押し寄せている。

3月議会でも岩城の議員が手ぬるい質問をしていたが、積善山の桜は風前の灯火だ。寿命、あるいは病気で貧相になる一方の桜。老桜が一杯一杯がらびはっているが、このままではたちまち看板に偽りありとなる。町の指揮官はどう思っているのだろう。